

1 事例の概要

本校では、平成15・16年度にわたり文部科学省学力向上フロンティア事業の委嘱を受け、「一人ひとりの『ゆたかな学力』を育む学校づくり」をテーマとして、研究実践を行ってきた。そして、17年度からは、この2か年の研究実践を継続・発展させる形で、3か年にわたる学力向上拠点形成事業の指定を受けることとなった。“学習意欲の向上と学習習慣の定着を目指して”を新たにサブテーマに掲げ、さらに充実した研究実践に取り組んでいる。

15年度からの研究の中では、社会科においても教科部会を中心にさまざまな取り組みをおこなってきた。その結果、生徒の主体的な学習を促す指導のために、“育てたい力”として4つの視点を位置づけた。

A-1 学校研究の経緯

A-2 社会科における育てたい力

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・ 企業活動に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・ 大企業、中小企業の特徴を知り、それぞれの企業について多面的に考察できる。
(社会的な思考・判断)
- ・ 企業に関する資料の収集や分析をもとに、自分の生き方に照らし考えをまとめ発表できる。
(資料活用の技能・表現)
- ・ 企業の活動の目的を理解し、その知識を身につける。 (社会的事象についての知識・理解)

(2) 指導上の工夫

- ①『社会科に関心をもち、意欲的に取り組む力を育てる』工夫
 - ・ 各学年においてキャリア教育の視点に立ったプログラムを作成
 - ・ 「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」のキャリア教育の視点から、各学年の発達段階に応じて系統化された「教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間」の各領域におけるつきたい能力とそのための具体的実践例の設定
 - ・ 社会科における進路学習や将来設計との関わりを意識した実践
- ②『社会科の読解力を育てる』工夫
 - ・ 「読む力と考える力を育てる」・「情報を比較分析し、適切に表現する力を育てる」を意識した実践
- ③『基礎的・基本的事項の定着を図る』工夫
 - ・ 授業の最初の復習5問テスト
 - ・ 授業のキーワードを書いたフラッシュカードを利用した見やすい板書

活動例

学習単元：3年公民分野、第3章企業を通して経済を考えよう「企業の活動の目的」(帝国書院)

企業の活動目的について理解し、企業の規模についての学習をした。企業活動の目的や大企業中小企業それぞれの長所と短所を理解した上で、読み物資料を用意し、その資料をもとに考察する学習をおこなった。この学習活動はキャリアプログラム(B-1)に位置付けられている。

B-1 キャリアプログラム

B-2 社会科における読解力

B-3 基礎基本の定着

3 指導の実際

学習内容に関して	○教師の働きかけと生徒の反応	支援○ 評価◎
<p>基礎基本の定着を行う。 (知識・理解)</p> <p>企業に対して多面的に考えさせる (思考・判断)</p> <p>キャリア教育の視点をもたせる (今日的課題)</p>	<p>○教師の働きかけと生徒の反応</p> <p>復習 5 問テスト</p> <p style="text-align: center;">様々な仕事のイラストから考えよう</p> <p style="text-align: center;">～ 企業について考えよう (目的・形態・特色など) ～</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>『将来、皆さんが、もし企業に就職するとしたら・・・?』 (教師)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>『絶対に大企業がいいと思う。』『たくさんお金をもらえそうだから。』 (生徒)</p> </div> </div> <hr/> <div style="display: flex;"> <div style="width: 45%;"> <p>○『大企業に務めるAさんも、中小企業に務めるBさんもそれぞれ悩みがありそうだね。』</p> <p>○『ここに登場するCは実は先生自身なんだ。』</p> <p>○『それはね・・・、みんなだったらどう答える?』</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>○Aは『人が多くて自分の力を発揮できてないし、好きな機械いじりができない。』と悩む。</p> <p>○Bは『忙しくて家族サービスもできないし、倒産の心配もある。』と悩む。</p> <p>○『え～!! そうなんだ!!』</p> <p>○『じゃあ、先生はAとBにどう答えたの?』</p> <p>○『苦しくても自分の好きな仕事ができる方がいいなあ。』</p> </div> </div> <p style="text-align: center; border: 1px dashed black; padding: 5px;">あなたはどう感じましたか。どちらの生き方に共感できますか</p>	<p>○前時の復習</p> <p>◎企業の目的を理解している。</p> <p>◎企業の特色を多面的にとらえている。</p> <p>○資料を配付・資料範読 (C-2)</p> <p>○注釈をつけて詳細も紹介する。</p> <p>A (大企業・営業) B (中小企業・技術者) C (担任・教師)</p> <p>◎自分の生き方に照らしながら考えをまとめようとしている。</p> <p>○正解を求めるのではなく、自由に意見を書かせる。</p>

「自分なら・・・」と自らの生き方に照らし考察することで、様々な考え方や意見が出された。単に、大企業は○○、中小企業は□□という概念理解にとどまらず、この後の学習単元 (経済構造、企業競争、雇用の問題、景気変動など) へのつながりという面でも学習の効果が見られた。

C-1 指導案

C-2 読み物資料

C-3 生徒感想



キャリア教育推進
わく・ワーク体験

4 成果と課題

① “育てたい力”として4つの視点から

- ・教科部会を中心に“育てたい力”について共通の認識をもち、教科として向上に努めた。
- ・具体的な取り組みについては丁寧に分析・総括し、以降の指導実践に活かすことができた。
- ・学校研究と系統的なつながりをもたせた実践指導やキャリアプログラムの構築が課題である。

②評価の工夫から

- ・生徒自身が行う、単元ごとの「学習ふり返りカード」への記入や、定期テストの自己採点表等の取り組みを通じ、生徒自身が自分の関心・意欲や知識・理解について系統的に把握し、学習にいかすことができた。
- ・丁寧な評価を、どのようにして個に応じた指導にいかしていくかが課題である。

③学力向上の視点から

- ・生徒アンケートでは、社会科が好きな理由として「学習の内容がよく分かるから。」「調べたり、考えたりするのが楽しいから。」というものが多く挙げられた。基礎学力調査のデータの継続的、系統的な分析を指導にいかそうとしてきた成果と考える。
- ・授業改善の視点から、具体的実践についてももしっかり総括し、さらなる工夫改善を行っていく必要がある。

D-1 成果と課題

D-2 学習ふり返りカード

D-3 自己採点表